

いよいよ通常授業が始まりました

今週から通常授業が始まりました。8月30日から始まった2学期は、個別登校・オンライン学習期間・分散登校・午前中授業で給食終了後下校という措置を続けてきました。ご協力をいただきましたこと、あらためてお礼申し上げます。

さて、9月21日には全員登校で、朝、校内放送で簡単な始業式を実施しました。子どもたちは、「元気に登校してくれてありがとう」「自分・友だち・家族の健康と命を守ること」「こんな時期だからこそ、友だちとのつながりを大切にするこゝろ」を話しました。先週から始まった給食の時間、食べている時にはひとことも話さず、約束を守っている子どもたちの姿がありました。また、休み時間には、久しぶりに会った友だちとステキな笑顔で話している姿が印象的でした。

四日市市内のコロナウイルスの陽性者数は、夏季休業中に比べると随分減少してきています。しかし、今週はまだ緊急事態宣言発令中です。今後とも引き続き「マスク・手洗い・きよりの感染対策をしながら、教育活動を行っていきます。どうぞご理解とご協力をお願いします。

夏休みの作品を展示しました

先週、各教室前の廊下や特別教室を利用して夏休みの作品の展示をしました。例年よりも時期は遅くなってしまいましたが、子どもたちが夏休み中にながら作ったり、実験をしたりした成果が随所に表れていました。がんばって取り組んだことが伝わってきました。お互いの作品を見合い、今後の学習に役立てる機会になったと思います。



全国学力・学習状況調査の結果概要のお知らせ

5月27日に実施された全国学力・学習状況調査の本校の結果概要をお知らせします。昨年度はコロナ禍にあって実施されず、2年ぶりであり、例年よりも1ヶ月遅い時期でしたが、国語科と算数科で実施をしました。少々長くなりましたが、ご一読ください。全国や三重県の結果はすでに公表されていますので合わせてご覧ください。

ほんこう けっか ぶんせき
【本校の結果と分析】

かくきょうか ぜんこく ひかく へいきんせいとうりつ ひかく
1 各教科の全国との比較 (平均正答率を比較)

こくごか さんすうか ぜんこくへいきん うわまわ けっか
□国語科と算数科ともに、全国平均を上回る結果となりました。

つよ よわ もんだいべつ おも けっか い か しめ
2 強みと弱み (問題別の主な結果を以下に示します)

ぜんこくへいきん おお うわまわ もんだい ぜんこくへいきん したまわ もんだい
【○：全国平均を大きく上回った問題 ●：全国平均を下回った問題】

こくごか
＜国語科＞

- 資料を用いた目的を理解する。
- 目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見付ける。
- 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。
- 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う。

かんてんべつ ちしき ぎのう ごく つか かた かんじ ただ つか ほな き
④ 観点別にみると、「知識・技能 (語句の使い方・漢字を正しく使う)」「話すこと・聞くこと」
「書くこと」についての正答率は全国平均を大きく上回り、「読むこと」についても全国平均を
上回っています。漢字や言葉の使い方といった基礎基本の力が定着しているとともに、「資料
をよく読み取り活用する」「自分の考えを簡潔に表して伝え合う」「自分で文章を工夫して
書く」という力がついていると言えます。また、全体的に無回答率が全国平均より極めて低
く、課題に向き合おうとする意欲が身につけていることが強みと言えます。ただ、中心となる
語や文を見付けて要約する力の正答率が全国平均をやや下回り、課題が見られました。「読むこ
と」については、この設問のみ全国平均を下回っていることから、これまで学校として大切に
取り組んできた「文章をよく理解して問題を読み解くこと」「自分で文章を工夫して書くこ
と」についての取り組みを引き続き進めながら、中心となる語や文を見つけて要約することが
できることをめざした授業に取り組んでいきます。

さんすうか
＜算数科＞

- 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。
- 速さを求める除法の式と商の意味を理解している。
- 三角形の面積の求め方について理解している。
- 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉えて、

面積の求め方と答えを記述できる。

○データを二次元の表に分類整理することができる。

○示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる。

☞ 観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の正答率が全国平均を上回りました。

領域別においても「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データ活用」すべてにおいて正答率が全国平均を上回っていました。また、「平行四辺形の面積の求め方と答えを記述でき

る」や「基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる」といった、記述式問題の正答率が全国平均を大きく上回っており、本校が大切にして取り組んでいる「論理的に考えて説明する」力がついてきています。また、国語科と同じように無回答率が極めて低く、課題に粘り強く向き合うことができることが強みであると言えます。

弱みとしては、直角三角形の面積を求める比較的単純な短答式問題の正答率が、やや全国平均を下回っていました。今後は、これまでと同様に、「式を言葉で表す」などの論理的に

考える活動を通して、お互いの説明を聞き合い、繰り返し話し合う活動を授業の中で大切にしながら、より正確に計算できる基礎的な力の定着にも引き続き取り組んでいきます。



3 指導の工夫・改善(児童質問紙とかかわって)

☞ 「学校に行くのは楽しいと思いますか」や「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答している割合は全国平均と比べ、それぞれ約8ポイント、約17ポイント上回っています。これらの結果から、学校生活全般および授業中で、達成感を味わうことができている児童の割合が高いことがうかがえます。本校では、より良い学校生活が確かな学力の定着につながるものと考え、引き続き、子どもの成長につながる指導に心掛けていきます。

☞ 「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」等のICT機器の活用に関する質問に対する肯定的な回答の割合が、全国平均を下回りました。昨年度の後半から一人1台タブレットや教室の環境も整い、今年度から教職員自身が学ぶ研修に取り組んでいます。また、今回のオンライン学習の取り組みを通して技術も向上してきています。今後も引き続き研修を進め、友だちとの意見交換や調べ学習等、ICT機器を

ゆうこう かつよう と く すす
有効に活用した取り組みを進めていきます。

☞ 「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対して、「している」「どちらかといえばしている」と肯定的に回答している割合は、全国平均と比べると、すべての項目で約4～5ポイント上回っており、家庭のご協力のもと、ほとんどの児童が「早寝・早起き・朝ごはん」の生活を実践しており、学校生活・学習を進めていくうえでの基本的な生活習慣を整えていただいています。このことが本校の学習状況の強みを支える基盤となっています。

☞ 「自分にはよいところがあると思いますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、肯定的に回答している割合は、全国平均と比べ、それぞれ約14ポイント、約5ポイント高く、自己肯定感が育ってきていると言えます。また、一昨年度の前回調査では、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に対して肯定的に回答した割合が、5ポイントほど全国平均を下回っていました。今回調査では約2ポイントではありますが、全国平均を上回りました。「まわりを気にして考えを表現することに不安を感じる」という弱みを少しずつ克服しつつあると言えます。今後も、「意欲をもって活動しようとする」「こつこつと努力していこうとする」「まわりの友だちと気持ちよく協働しようとする」「教室の中で自分の思いや考えを出していけること」などの力を育てることを大切にしていきます。これらの力の源であると言われている自己肯定感をより高めていくために、引き続き、一人ひとりを大切にしたい。「人権を尊重する仲間づくりの推進」「豊かな心の醸成」に取り組み、学習の基盤を整えていきます。



4 家庭学習（児童質問紙とかかわって）

☞ 「月～金曜日の家庭学習（塾を含む）が1時間以上」と回答した割合が、全校平均よりも約20ポイント上回っています。また、「全くしない」と回答した児童はおらず、家庭学習が定着していることが本校の強みであると言えます。そして、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に対して、「よくしている」「ときどきしている」と回答した割合は全国平均よりも約7ポイント上回っており、予習や復習・読書などに取り組む時間をみずかにかくほしむたいきとくこふから、今後、学校の宿題以外にも、学年の発達段階に応じて自主学習の取り組みをより進めていくことで、与えられた

課題に取り組みだけでなく、自分なりの学びを能動的に進めていく力の育成につなげていき
いと考えます。

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらか
といえば、当てはまる」と肯定的に回答した割合は、全国平均を約19ポイント上回りました。
また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に
対する肯定的な回答は、全国平均を約3ポイント上回りました。本校児童は、地域の皆さんに
見守られて育っています。地域社会とのつながりが深いのは強みです。そして、コロナ禍にあ
って、地域活動に制限が強いられている中で、「地域や社会をよくするために何をすべきか
考える」の肯定的な回答の割合が全国平均を上回っていることも大きな強みだと考えます。学
んだことを何に活用するのかを考えることが、学習に向かう姿勢を高めることにつながっ
ていると言えます。引き続き、子どもの成長のために地域の皆さんのご支援をよろしくお願
いします。

<保護者の皆さんへ>

家庭学習は学習内容の定着のみならず、基本的な生活・学習習慣の定着にもつなが
ります。小学生の家庭学習を定着させるためには、学年が低いほど、ご家庭での声かけや
見守りが大切です。家庭学習の習慣を定着させるとともに、今、自分がすべき学習を考
えて実行できるようになるために、引き続き、ご家庭での声かけやご支援をお願いします。
本校では、子どもたちの確かな学力の定着に向けて、「基礎的・基本的な知識・技能の定着」
「問題解決能力の向上」「特別支援教育の推進」に取り組んでいます。また、子どもたちが
目的意識を持って授業に臨めるように、「めあてを提示するとともに、授業の終わりには、まと
め・振り返りを行う」ことに引き続き取り組んでいきます。そして、安心して学んでいくことが
できるためにも、「心の教育の充実」「健康・体力と安全意識の向上」に取り組んでいきます。
なお、本調査により測定できるのは、学力の一部分であるとともに、学校における教育活動
の一側面の結果であることをご理解ください。